2018年6月

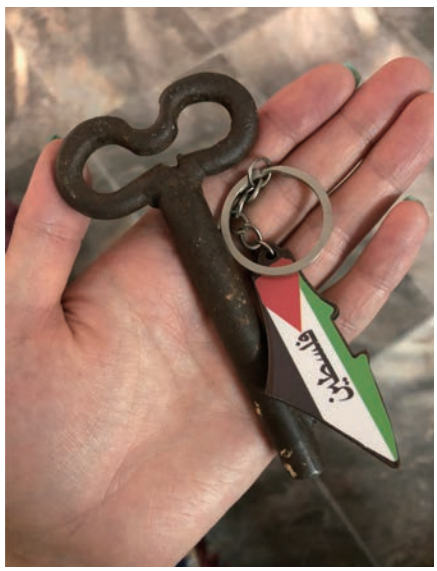
# 民際協力ニュース

パルシック ニュース VOL.32

パルシック PARC Inter-peoples' Cooperation

## パレスチナ　ナクバ70年によせて―ファティマとラビア

パレスチナ難民の帰還権の象徴として鍵が描かれたナクバの日のポスター



数日で戻れると思って持ってきた家の鍵は、今も保管されている

20歳になるファティマは、夫のラビアとまだ乳幼児の2人の息子ムハンマドとマフムードと、地中海に面するパレスチナ南部のイシュドゥード村で暮らしていた。1948年のある日、ファティマは畑で働く夫に届けるために、いつもどおり家で昼食の準備をしていた。ところがこの日、正午にさしかかる頃、突然夫が家に駆け戻り、ムハンマドを抱きかかえながら「急いで支度しろ、貴重品と食べ物を集めるんだ！」と叫んだ。突然のことにファティマは困惑しつつも、ただ夫の言うことに従った。金の指輪とお金、少しの食べ物を包み、息子の寝具を抱えて玄関に向かいながら、「一体どうしたの？」と尋ねた。「ユダヤ人の軍隊が侵攻してきた。出くわした人を片っ端から殺してる。戦車で家を破壊してるんだ！」夫の返事にファティマは言葉を失った。2人は村の境までひた走り、たどり着いて衝撃を受けた。既に多くの家族が子どもたちを連れて逃げてきていたのだ。「いつ家に戻れるの？」「1日か2日の辛抱だ。」ファティマは「あっ」と声を上げた。「火を消すのを忘れてきたわ。食べ物が燃えてしまう！」

ここに登場するファティマとラビアは私の父方の祖父母です。父の名はマフムード。イシュドゥード村に生まれましたが、ガザで育ちました。この日こそ、私たちパレスチナ人の大惨事の始まりでした。70万人が家を追われてついぞ戻ることは叶わず、数百の町や村が破壊されました。この強制退去、収奪、離散は「ナクバ*（大惨事）」として知られています。

1948年以来、私たちは最悪の中を生きてきました。土地を奪われ、家を壊され、追われて逃げ延びてきました。壊滅的な戦争を3度経験し、無傷で済んだ者はいません。私は弟を失い、両親の家も壊されました。たくさん辛い事を経験し、最低限の人権すら持たない中、それでもなお、私たちはここで生き残っています。子どもたちがよりよい未来を享受できるよう、道を切り開くために。

（パルシック・ガザ事務所代表　サハル）

*「ナクバ」はアラビア語で大惨事の意味。パレスチナでは、1948年のイスラエル建国に前後して行われたパレスチナ住民の強制退去と土地・家屋の収奪と破壊、虐殺を指します。当初、避難した人びとはこれが一時的なものであり、すぐに戻れると考えていました。2018年3月30日（1976年のイスラエルによる大規模な土地収奪と抗議デモへの弾圧を記憶する「土地の日」）から、ガザ地区では毎週金曜日に国境付近で1万人規模の抗議デモが行われていましたが、5月14日の在イスラエル米国大使館のエルサレムへの移転によって、抗議デモが拡大しイスラエル軍との衝突はさらに激化しています。5月15日現在、この衝突で114人が死亡し、重軽傷者は12000人に上ると伝えられています。

目　次

パレスチナ　ナクバ70年によせて―ファティマとラビア…… 1
パレスチナ　ガザ事業／西岸事業…… 2
シリア難民　レバノン事業／トルコ事業…… 3
東ティモール　水利改善事業／女性事業…… 4
スリランカ　北部事業終了／東京での居場所づくり…… 5
東ティモール　コーヒー事業／スリランカ　紅茶事業…… 6
フェアトレード／民際教育事業…… 7
パルシックからのお知らせ…… 8

## ガザ　生計支援事業

### 被災農家の灌漑設備を修復

1月、温室の屋根を利用した雨水の効率的な収集・貯水システムを22の農家グループ、77世帯の畑に設置しました。また、寒波や水不足など極端な環境変化の影響に悩む露地栽培農家90世帯に、温度・湿度や病害虫管理を助ける簡易ビニールハウスや灌漑パイプなどの農業資材を支援しました。トマト農家のラファットさんは「貯水システムがあって本当に助かる。質の良い野菜ができたら、仲介業者を介さず自分で販売しようと思う」と話してくれました。

スタッフが農業資材の設置をモニタリング

### 女性世帯を対象に畜産事業を開始

ガザでは約1割が女性が世帯主であるといわれますが、女性の失業率は6割近くで、その貧困対策が喫緊の課題となっています。そこで、1月から新しく、畜産事業を開始しました。南部ラファ地区の農村で女性を稼ぎ手とする世帯を中心に小規模の女性グループを作り、羊の飼育生産に取り組みます。将来的には女性協同組合を立ち上げ、生乳から良質なチーズやヨーグルトを作って販売することで収入を得られるよう支援します。

アルショカ村での事業説明会に詰めかけた女性たち

3月、事業対象地のアルナセル村とアルショカ村で住民への事業説明会を行いました。当日アルショカ村では「羊がもらえるらしい」と聞きつけた300人の女性が大挙して会場に詰め掛け、あまりの人だかりに心配した警察が見に来たほどでした……！　スタッフが丁寧に事業内容を説明し直し、現在、最終的な参加候補者宅を訪問し、精査を進めているところです。（盛田）

（農業事業はジャパン・プラットフォームと連合・愛のカンパによる助成と皆さまからのご寄付から、女性たちの生計支援事業は日本NGO連携無償資金協力の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

## 西岸　堆肥の品質改善に向けて

2016年に始まった西岸のナブルス県ジャマイン町での循環型社会づくり事業は、今年で3年目を迎えます。昨年11月に完成した堆肥舎では、参加農家を中心に床材・堆肥作りが本格始動しました。手作業の堆肥作りは、とても骨の折れる作業ですが、堆肥を発酵させるための「切り返し」作業を丁寧に行えば、ハエや悪臭を改善できます。

昨年度は床材作りに必要なオリーブの剪定枝チップを十分に確保できず、少量での実験的な堆肥作りとなりました。課題となったのは、堆肥の水分量コントロールです。雨季に入り雨が続くと、道路の傾斜になった部分から思わぬ形で雨が堆肥舎に入り込み、仕込んだ堆肥が濡れてしまうこともありました。壁に排水口をつけたり、盛り土をしたりして雨の侵入を防ごうと試行錯誤を繰り返しました。今年度は夏季の間にコンクリートを施工して水の流れ口を作り、雨対策を強化するよう農家組合と話し合いを進めています。

堆肥づくりに取り組む農家

また良い堆肥作りは、近隣家庭の協力があってこそ可能となります。水分量の多い生ゴミの一次処理を家庭で適切に行ってもらえるよう、協力世帯に対して今後も粘り強く説明を続けていきます。（関口）

（この事業は地球環境基金の助成と皆さまのご寄付で実施しています。）

### 事業に参加する中学生の声

私は学生環境クラブ結成時からのメンバーです。環境クラブの活動に参加してから、私の生活は変わりました。今は、自宅の庭や植物の手入れができるし、生ゴミの適切な処理の仕方も知っています。家族と親戚にも食べ残しを堆肥に使うようにとアドバイスしました。今年は西岸の他の学校に環境クラブのコンセプトを伝え、みんなにもっと環境問題について理解してほしいです。パルシックには私たち以外の世代にもこうした活動を広めていってほしいです。

専門家の指導を受ける環境クラブ参加学生

## レバノン　教育センターで見守る生徒たちの成長

ベカー県バル・エリヤス市で現地NGOのサワ（SAWA for Development & Aid）の協力を得て2017年10月に開校した教育センターには、近隣の難民キャンプから5～12歳のシリア難民の子どもたち約270名が通っています。当センターでは、アラビア語、算数、英語などの基礎科目に加え、体育、音楽、菜園実習などを加えたカリキュラムを通じて、子どもたちがいずれ公立学校へ編入できるように基礎学力を身につけるとともに、心身が健やかに成長することを目指して教育が行われています。教員たちのほとんどは、レバノンに難民として逃れてくる以前はシリアで教職に就いていた人たちです。

菜園実習でジャスミンの木に水をやる生徒たち

新学期には緊張して表情の硬かった生徒たちも、今では見違えるほど明るく元気な笑顔を見せるようになりました。また12月にサンドイッチ給食が始まってからは空腹に煩わされず、集中して授業に臨むようになりました。授業では多くの生徒が、先生の質問に対して積極的に手を挙げ、中間考査では教員らも驚くほど優秀な成績を修めました。その後実施された保護者会には多くの保護者が参加し、センターへの期待の高さがうかがえました。

厳しい冬を経て、菜園に植えられ日々育っている野菜や花の苗のように、厳しい環境で暮らす生徒たちも一人一人すくすくと成長し6月には学年末を迎えます。

（岡崎・宮越）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

### 保護者の声

**アポイナッドさん**

私たち一家はシリアのアレッポで暮らしていましたが、2013年にレバノンへ避難してきました。家や家財道具などは全て失ってしまいました。3年生と5年生の2人の息子は公立学校に定員オーバーで受け入れてもらえず途方に暮れていましたが、教育センターに通えるようになり、大変感謝しています。基礎学力を身につけて、いつか公立学校へ編入させてやりたいと思っています。

## トルコ　村の活動の大切さと難しさ

トルコ政府はトルコでのシリア難民の子どもたちの教育・保護支援を強化し、トルコの公立学校に入学できるよう教育制度を整備するとともに、継続して学校に通う生徒の家族に経済的補助をしています。しかし、活動地域のシャンルウルファ市郊外の農村部の学校では、シリア人を受け入れる体制がまだ整っておらず、シリア人の子どもたちの就学率は40％に留まります（トルコ全国では60％）。

またほとんどの家族が経済的に困窮しており、仕事を求めてトルコ国内での移住を繰り返しています。子どもたちも働く保護者に代わり家事や幼い兄弟の世話をし、農作業や工場での日雇い労働に従事して家計を支えなければなりません。

パルシックでは学校に行けない村の子どもたちが少しでも心身ともに健康に発達できるよう、巡回型移動教室での学習活動や集団での遊びの場を提供したり、保護者への育児アドバイスやシラミ対策などの衛生教育を実施したりしています。

生活のため仕事のある場所へ引っ越していく子どもたち

今後も子どもたちの成長を見守りながら、教育の重要性を保護者へ伝えていくと同時に、農村地域の生活改善に取り組んでいく必要があります。トルコで活動する他の支援機関とともに、よりよい支援の形を切り開こうとしています。

（大野木・高田）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

### 保護者の声

**ハナ**（8歳）**のお母さん**

娘はシラミがあることでこの数か月間、トルコの学校から登校を禁止されていました。家で洗髪してみましたが、それでも改善できませんでした。洗髪して拭いた後のバスタオルにもシラミが見えるほどで、どうしたらいいのか本当に困っていました。シラミ防止シャンプーの配布と使用方法の説明を受けて使ってみると、完全ではないものの改善し、また登校できるようになりました。またシラミが見つかって登校禁止にならないか心配です。

シラミ防止シャンプー使用方法の説明を受ける親子

## ■マウベシ村での水利改善事業がスタート

東ティモールの上水事業は最後の年を迎えています。3年目の現場はマウベシ村。パルシックのマウベシ事務所から現場まで車で15分とアクセスしやすい場所で、徒歩で往復することも可能です。ファトゥファエ、サルララ、ウラホウの3集落の156世帯1273人が安全で清潔な水を使えるようになります。水源は1か所で、引いた水はすぐ近くに設置する貯水槽に汲まれます。この水槽は揚水ポンプを内蔵しており、ポンプによってより高地に位置するもうひとつの大型貯水槽まで水を引き上げます。この水槽から高低差を利用して水が集落に分配され、集落内の小水槽と公共水場に供給されるようになります。

現場は険しい山道を登った所に位置しているため、車両による資材の搬入が難しい場所もあります。砂や小石などの運搬は、集落の住民や学校を終えた子どもたちが、米の空き袋などに少しずつ詰めて山道を登ったり降りたりして手伝ってくれます。

ため池灌漑事業はハヒマウ、レボテロ、ハヒタリの3集落において合計8基のため池の造成を計画しており、水源より高い場所にため池を造成するものが多くなります。これは水源上部を掘ることで雨水を地中に浸透させ、水源を豊かにする効果を見込んでいるためです。

（大島　大）

（この事業は、日本NGO連携無償資金協力の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

集落の住民と協力して貯水槽の土台を造成

### 住民の声

**レオニト・バロスさん**（サルララ集落）

私の家から水源までは1㎞ほどの距離があります。朝から晩まで、毎日の水汲みは大変です。妻や子どもたちが手伝ってくれますが、一日のうち水汲みに要する時間は約4時間。私の住むサルララ集落に上水システムができて、家の近くの公共水場を利用できるようになれば、水汲みの時間は1時間ほどに短縮されるでしょう。そのため一日も早く完成するように、私は毎日現場に行って、パルシックの人たちと一緒に汗を流しています。

## ■女性事業　女性グループのネットワーク化に向けて

5ヶ年の農村女性による生計向上事業は残り半年で終了します。2016年10月に「アロマ・ティモール」ブランドを立ち上げ、商品開発、品質改善や新たな市場開拓など、これまで女性たちと共に数々の課題に挑戦してきました。

5県に点在する14グループが協力・協働して課題解決出来るようグループ同士のネットワーク化に向けて、試験的にグループ間による検品作業や流通手段の検討、共同出荷、共同販売を開始しました。2月には各県のコーディネーターとなる女性たちが首都ディリに集い、今後のネットワーク化に必要な事柄について話し合いました。課題はやはり首都ディリでの市場の限界。量産できる商品については地方での販売強化と輸出の可能性を探ります。一方、ジャムやクッキーなど賞味期限が短い商品は販売先が限られてしまいます。しかし東ティモールの地方には収穫量は少なくても季節ごとの美味しい野菜や果物がたくさんあります。それらを新鮮で美味しいうちに加工することで本来の素材の良さを生かし、商品数を増やすことで各グループの活動が継続していけるような工夫も必要となっています。

「アロマ・ティモール」が消費者に支持され、女性たちの収入にも繋がり、且つ事業が終了したあともネットワークを維持できる仕組みづくりや、課題を一つずつ確実に解決していく方法を現在、女性たちと共に創り出しています。

（林　知美）

（この事業は、JICA草の根技術協力事業のご支援と皆さまからのご寄付で実施しています。）

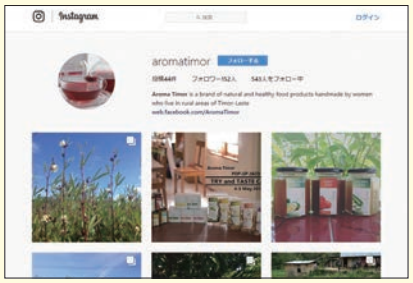
女性グループのネットワーク会議の様子

### 応援をお願いいたします！

各グループの現状や商品のことを知ってもらうためのツールとして、「アロマ・ティモール」専用フェイスブック、インスタグラムページを開設しました。是非、いいね！とフォローをお願いします！

Facebook　@AromaTimor

Instagram　@aromatimor



## スリランカ北部の復興事業を終えて、現地法人として継承

2018年3月、サリー・リサイクル事業を終了し、スリランカ北部でのNGOとしての活動に幕を下ろしました。パルシックの元スタッフたちが運営する現地法人カイス＝KAIS（KAIはタミル語で手の意味）がこれまでの活動を引き継いで、事業で生まれた商品（サリー商品や干しエビ）の販売、タミル文化を伝えるゲストハウスや現地ツアーの運営を行います。

2009年5月の内戦終結から9年経ちます。この間に北部では道路や鉄道の修復、住宅の再建等のハード面の復興が進むとともに、2015年の大統領選後、検問所の撤去や接収されていた土地の返還などソフト面の復興も加速しました。

復興事業がいち段落し、北部もやっと通常の経済活動に戻っていこうとしています。南部の都市コロンボでは、この間に目覚ましい経済発展を遂げ、新しいビルの建設が次から次へと進んでいます。近年ジャフナにもゲストハウスが増えたとはいえ、いまだ景気のいい話は聞きません。投資が増え、産業が育っていくにはまだ時間がかかることを実感しつつ、KAISのスタッフや近年観光業に就いたパルシックの古くからの友人たちと協力しながら、ジャフナで観光業が育ち、北部の若者たちの雇用機会が増えるように、今後も東京事務所から応援していきます。

日本からもぜひ多くの方にスリランカ北部を訪問していただきたいと思います。ジャフナ観光やゲストハウスにご興味のある方は、パルシック東京事務所までお問合せください。（西森　光子）

### KAIS代表アジットからのメッセージ

2004年からパルシックの一員として、日本の皆さんからの資金援助を受けて、日本人スタッフと一緒にスリランカ北部のタミル人コミュニティの復興を支援できたことを嬉しく思っています。この14年間に、ジャフナとムライティブで複数の復興と生計向上の事業を実施できました。これからは、パルシックの活動を引き継いで、KAISというパルシックが立ち上げた会社で、社会的企業活動を行っていきます。今後、KAISが提供するサービスや商品の質を高めて、国内外のお客様に満足してもらえるようにしていきます。特にゲストハウスでは、ゲストがリラックスして滞在できるよう、また思い出に残る時間となるように、ジャフナの人が誇る細やかなホスピタリティを生かしていきたいと思います。

緑ゆたかでリラックスできるKAISゲストハウス

## 東京での居場所づくり　みんなが集える「場」づくり

2016年10月から日本国内の調査を開始して1年半、様々なことが見えてきました。経済的に苦しい状況で日々を暮らすひとり親家庭、生き辛さを抱える若者、孤独にさいなまれる一人暮らしの高齢者、格差の拡大など、日本の色々な課題を知りました。またこれらの問題に対し、子ども食堂や学習支援、ひとり親支援など、既に活動に取り組んでいる多くの団体の活動からも学ばせていただき、パルシックとして何が出来るかを考えてきました。子ども、若者、お年寄りが集えるような居場所をつくり、食事や東ティモールのコーヒーやハーブティーを提供しながら、まず地域を知り、住民の方と知り合いになりながら、個々が抱える悩みに寄り添い、最終的には必要な支援に繋げることを目標にします。この間、東京都東部を中心に地域のそれぞれの状況を調べてきました。その結果、葛飾区で活動してみよう、と目下、区内での物件探しに勤しんでいます。

なぜ葛飾区か？　それは区として子どもの貧困対策を昨年度立ち上げたばかりで、一緒に協働できると考えたからです。

しかし想定はしていたものの、物件探しはなかなか大変です。少ない予算である程度の坪数、飲食提供が可能な場所となるとおのずと限られてきます。一度決まりかけた物件が断られることもありました。このような活動が一般的に認知されるようになるにはまだ時間がかかりそうですが、きっとそれも私たちの頑張りしだいです。道のりは平坦ではないかも知れませんが「こんな場所があって楽しいな、安心できるな」「ほかの地域にもこんな居場所があったらいいのに」と思っていただける、人びとの拠りどころとなれるような「場」づくりを目指しています。（大坂　智美）

物件探しのなか、東京らしく建物の間からきれいな夕日が見えました

## ■コーヒー事業　今年は豊作!?

ラ・ニーニャ現象による長雨が心配されていた東ティモールですが、4月に入ると雨はほとんど降らなくなり、通常通りの乾季が始まりました。コーヒーの実は例年よりも早く赤く色づき、標高の低い地域では4月半ばから収穫作業が始まりました。標高1200メートルを超えるマウベシコーヒー生産者協同組合（コカマウ＝COCAMAU）でも、例年よりひと月早い5月半ば頃の収穫開始を予定しています。

気になる実の付き具合ですが、大不作だった昨年の反動で今年は豊作との予測です。どのくらいの豊作かを組合員に尋ねると、「昨年は立っていても収穫できなかったのが、今年は座ってでも収穫できるくらい」との返事。たわわに実った赤いコーヒーの実に囲まれて、収穫作業に忙しいコーヒー生産者たちの姿を見られることが、いまから楽しみです。

今年は、東ティモール・コーヒー協会がコーヒーの加工工程が品質に与える影響について評価する事業を実施します。マウベシでも、乾季の雨に対応できるよう雨避けを付けたコーヒー用乾燥台を試作して、乾燥工程の改善に取り組んでいます。こうした試行錯誤がコーヒー畑の手入れという、なかなか腰の上がらない行動に結びつくよう今年も生産者の皆さんを励まし続けたいと思います。

（伊藤　淳子）

ロビボ集落で試作した雨避け付きの乾燥台

### コーヒー生産者の声

**ミグエル・ダ・コスタさん**
（コカマウ・レポテログループ代表）

2003年からコカマウの組合員としてコーヒーの品質改善に取り組んできました。昨年はどこも不作でしたが、組合に入ってから少しずつ枝の剪定を続けてきたわたしのコーヒー畑では、例年通り実がつき、手入れをしていない古い木との違いは明らかでした。今年もいい具合に実がついています。コカマウに加入して15年、学んだ知識や技術をコーヒーの品質改善のために使ってきました。これからもコーヒーを買ってくださる方の信頼を損なわないよう、古株としてコカマウを盛り立てていきたいと思います。

## ■デニヤヤ紅茶事業　茶葉生産量の低迷打開への挑戦

スリランカでは2016年から天候不良による茶葉の不作が続いており、パルシックが2011年から支援している小規模有機紅茶農家グループ「エクサ」のメンバーも生産量の低迷に苦しんでいます。茶葉生産量の低下による収入低下を補うために茶葉以外の有機農産物による収入向上が喫緊の課題となっています。メンバーの茶畑はもともと茶の単一栽培ではなく、スパイスやココナッツなどが混植している状態でしたが、有機栽培支援を通じてさらに多様な植物が共生する圃場作りを進めてきました。ただ、これまでは茶以外の作物のほとんどは自家消費、残りは周辺の商店などへの販売にとどまっていました。生産量がまとまっていないこと、デニヤヤから都市へのアクセスが悪いことなどが理由で、なかなか継続的な販売につながりませんでした。そこで、茶以外の作物の生産性を上げるため、今年1月にマータレー県にあるバイオダイナミクス農法研究所を視察し、メンバーはバランスのとれた混植栽培、局地的気候を生かした圃場管理方法などを学びました。引き続き、茶以外の有機農作物の生産性向上の支援と日本などへの輸出も含めた販路の拡大に取り組みます。

（高橋　知里）

バイオダイナミクス農法研究所での視察の様子

### 紅茶生産者の声

**ランジャニさん**（エクサ・メンバー）

パルシックが事業を開始した2011年から事業に参加しています。我が家の有機圃場には茶の他に黒コショウとココナッツ、ランブータンの木があり、家族で消費したり、周辺の親戚に分けたりしています。マータレーでの研修で、土壌や気候、月や太陽の動きを考慮した古くからの農法を学び、伝統的な方法でも収穫量を増やすことができることを再認識しました。研修で学んだことを家族と共有して、野菜や果物の種類を増やし、収穫量も増やそうと相談しているところです。

日ごろ意識せずにしているお買い物、日常生活の中のふとした行為が、環境破壊や貧富の格差など、社会の不均衡をもたらしている場合があります。パルシックはフェアトレードの商品を通して、普段私たちが手にしている商品の背景、作っている人たちの暮らしを、ともに考えていきたいと思います。

## 「アロマ・ティモール」の効能
### 東ティモールの伝統薬をハーブティーに

ハーブティーを飲むのは、夜眠りにつく前がおすすめです。自分の時間をもってゆっくり飲みながら、1日のストレスをリセットし、次の日を迎える準備をします。ストレスの緩和は健康生活の第一歩。自分に向き合う一方で、ハーブティーの背景、つくっている女性たちやその暮らしに想いを馳せて、日常で世界を旅してみませんか。

**◆レモングラス**　さわやかな香りのハーブ

レモンのようなさわやかな香りで気持ちを落ち着かせ、リラックス効果を与えてくれます。抗菌度が高く、風邪の予防としても昔から重宝されてきました。また消化を助ける効果、デトックス効果もあるといわれます。

**◆ツボクサ&ミント**　さわやかな目覚めのハーブ

ツボクサは東ティモールで「知性のハーブ」と呼ばれ、アーユルヴェーダ（インド、スリランカの伝統医学）の世界では「奇跡のハーブ」といわれ、WHO（世界保健機構）の「世界に残さなくてはいけない重要な薬用植物」に選ばれています。血の巡りを良くする、脳を活性化する、むくみ防止に効果があるといわれています。

**飲み方のポイント**
茶葉が硬いので、5分間以上ポットで蒸らすことをおすすめします。

| アロマ・ティモール　全5種類 | |
|---|---|
| ツボクサ&ミント | 各30g入<br>700円（税別） |
| アボカドリーフ&ライムリーフ | |
| 月桃 | |
| レモングラス | |
| ハイビスカス（20g入） | |

## 初夏にぴったり　美味しいアイスティーの作り方

爽やかなベルガモットの香りが特徴のアールグレイ紅茶は、アイスティーにぴったりです。

〈準備するもの〉
アールグレイ紅茶（ティーバッグ）　1個
熱湯　約100ml、ティーポット、グラス、マドラー、氷

〈作り方（1人分）〉
①ティーバッグ1個をティーポットに入れ、熱湯約100mlを注ぎます。
②ふたをして3分～5分蒸らします。
③グラスに氷をたくさん入れます。
④熱い紅茶を氷の上に一気に注ぎ、すぐかきまぜたら出来上がり。

ルフナ紅茶を使用したアイスミルクティーもおすすめです。その場合、一番最後（④の後）に牛乳を注いでください。

**一気に冷やすのが美味しさの秘密！**

有機アールグレイ紅茶
（ティーバッグ/リーフ）
各700円（税別）

## 民際教育事業を拡大中！

夏期休暇に向けて、大学生、高校生がマレーシアのペナンに滞在して、英語や多文化社会、環境と開発の課題などについて学ぶ海外研修事業の準備を進めています。2018年で4年目になる清泉女子大学のプログラムでは、毎年好評の漁村での民泊の日数を増やし、漁村に入って英語でマレーシア社会について学ぶ時間を増やします。2018年度は、スリランカでの研修と視察を2件予定しています。

ペナンでの英語研修の様子

## ちょっと寄り道♪ 珈琲焙煎店

京都市伏見区の住宅街、長い煙突がそびえ立つ建物があります。知る人ぞ知るこだわりの自家焙煎「グリーンアイズ」さんの焙煎所兼お店です。フェアトレードかつ農薬、化学肥料不使用の生豆だけを原料に使用し、産地ごとの豆がもつ本来の味を引き出す焙煎はまさに職人技。優しい味わいとすっきりとした後味、初めてコーヒーをいただいた時の衝撃は忘れられません。美味しさの秘密のひとつは、あの煙突だとか……！

創業者の森口鍛氏は、パルシックにコーヒーとの向き合い方、焙煎のことをたくさん教えて下さった（勝手ながら）師でもありました。現在は息子さんたちが引き継がれ、変わらぬ美味しいコーヒーを提供されています。

**有限会社グリーンアイズ/喫茶は『氣樂堂』**
**〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町8-111**
**定休日なし**
**平日 9時～18時　土日祝 10時～18時**

2代目の森口渉さん

## イベント開催報告

4月24日

### レバノン緊急越冬支援報告（毎日ホール）

2018年1月～2月に、レバノンのバアルベック・ヘルメール県北部の標高1,550mにあるアールサールのキャンプで暮らす439世帯のシリア難民に、灯油を配布する緊急越冬支援を実施しました。アールサールは危険地域とされ、十分な支援が届かず、シリア難民たちは寒さが厳しい時期に灯油すら買う経済的ゆとりもない中で、身を寄せ合って暮らしていました。現場を目の当たりにした現地スタッフの熱い想いから始まり、日本のみなさんのご寄付によって実施できた灯油配布の様子や、レバノンでのシリア難民の暮らしについて、レバノン駐在員の岡崎文香が報告しました。70名の方がお越しくださり、後日、毎日新聞で報告会の様子が取り上げられました。

概要
日時：2018年4月24日（火）18：30～20：00
参加人数：70名
会場：毎日ホール
主催：毎日メディアカフェ
企画：特定非営利活動法人パルシック

4月26日

### サリー・リサイクル事業終了報告（JICA東京）

2015年からJICA草の根技術協力事業「内戦復興における女性のエンパワーメント―サリー・リサイクル事業―」を実施し、2018年3月に3年間の活動を終えました。終了にあたり、スリランカで事業を担当した伊藤文が、事業を振り返り、成果や課題、事業からの学びを報告しました。

3年間の事業を通して、女性たちが収入を得るだけでなく社会参加の機会を得て自信をつけるという、事業の目標が達成された一方で、草の根事業の終了後も現地法人が引き継いで持続的にサリー製品の生産・販売ができる体制を築いていくことの難しさについて話しました。会場では女性たちが手掛けるブランドSari Connection のリサイクルサリー製品を実際に手に取っていただきました。

概要
日時：2018年4月26日（木）15：00～16：30
参加人数：30名
会場：JICA東京別館
主催：独立行政法人 国際協力機構（JICA）

### 家の片付けで、パルシックの活動を支援！「古本チャリティ募金」を開始

パルシックは、古本やDVDなどの買取金を寄付に活用できる「古本チャリティ募金」との協働をスタートしました。

あなたが読み終えた本やDVD・CDを「本棚お助け隊」に送るだけで、査定額がパルシックに寄付される仕組みです。さらに査定額の10%が「古本チャリティ募金」による協力お礼金として、上乗せして寄付されます。

ご参加方法は、読み終えた本やDVD・CDを、ゆうパックの着払いで「本棚お助け隊」に送るだけです。ご寄付金は、パルシックがトルコ、レバノンで実施しているシリア難民支援を通じて、シリア難民の生活支援に使わせていただきます。 ぜひパルシックへのご寄付としてご活用ください。

古本チャリティ募金のお申込・お問い合わせ・無料ダンボールの取り寄せはこちらから

- お電話で
  **03-6388-9301**
- インターネットで
  **https://hondana.biz/charity-apply/**

本棚お助け隊

QRコード

＊古本チャリティ募金によるご寄付の領収書は発行いたしません。

## 皆さまのご支援によって支えられています

### パルシック会員募集

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

**年会費**
会　　員：10,000円
賛助会員：20,000円

入会ご希望の方は、東京事務所までお問い合わせください。

### ご寄付のお願い

**あなたの寄付で、パルシックの活動を支えてください。事業地の指定も可能です。みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。**

パルシックは認定NPO法人です。パルシックへのご寄付、募金は、確定申告によって所得税、法人税、相続税などの寄付金控除を受けることが出来ます。

●**クレジットカードでの寄付（Webサイトより）**
http://www.parcic.org/donation/donate/

クレジットカード寄付 QRコード

●**郵便局からの寄付**　郵便振替口座：00140-8-536957
口座名：パルシック

●**銀行からの寄付**　三井住友銀行　神田支店（普）2384136
口座名義：特定非営利活動法人パルシック

※銀行からお振り込みの際は、ご住所とお名前をご一報ください。

民際協力ニュース　VOL.32　2018年6月

PARCiC
特定非営利活動法人 **パルシック**（認定NPO法人）
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F
電話：03-3253-8990　Fax：03-6206-8906
メール：office@parcic.org　Web：http://www.parcic.org

**オンラインショップ ParMarche**（パルマルシェ）
http://parmarche.com
**twitter**（東京事務局）　@parcic_office
**facebook**　@parcic
**Instagram**　@parcic_tokyo